

『イエスは真の礼拝を要求する』 '20/05/03(ライブ礼拝)

聖書箇所:ヨハネの福音書 4章 1-39節(新約 p.178-)

皆さん、おはようございます！ いよいよ、GW も始まりましたが、皆さんは、いかがお過ごしでしょうか？ 先日は、「緊急事態宣言」が延長されて…、皆さんと一緒に礼拝できるのは、また、さらに延びてしまいました…(泣)。しかし、天の神様は、常に、私たちに良いことだけをして下さっております(ローマ 8:28)。どうか、心からの感謝と信頼…、そして、献身の思いを込めて、賛美をいたしましょう！

<メッセージ>

今日、私たちは、ヨハネ 4 章に載っている、あのサマリヤの女が救われた時のエピソードについて見ていきたいと思ひます。そこで、私たちが見ていきたいのは、一体、イエス様は、どのようにして、このサマリヤの女へのアプローチをして下さったのか？ …少し言い換えますと、私たち人間が、「本当に救われる時に見られる3つのステップ」について、ご一緒に考えていきたいと思ひます。そうすることによって、願わくは、今日、まだ、この救いに預かっておられない皆さんが、1日も早く、この救いに預かれますように…、また、もう既に救いに預かっているクリスチャンは、その救いを与えて下さった神様に、心からの感謝を捧げ…、その神様に、すべてを委ねて歩んでいけるようになっていけることを願ひます。

命題: 本当の救いに見られる、3つのステップとは？

どうぞ、聖書をお持ちでしたら、ヨハネ 4 章をお開きください。今日は、ヨハネ 4:1-39 を通して、先程も言いましたように、「私たちが救われるために必要な3つのステップ」について、このみことばから学んでいきたいと思ひます。今日は、与えられた聖書のみことばが少々長いので、詳しくは見ていくことができませんが、その代わり、できるだけ、要点を絞って見ていきたいと思ひます。

I・私たちを取り巻く、神の導き！(1-14節)

まず、このみことばが1番に教えてくれていること…、それは、**私たちのことを取り巻いている、神様の“導き”というものであります。**実は、救いと言ひますものは、私たちの側で何かを始める！ というようなものではなく…、まず、神様の側が…、いえ、本当は神様がすべてのことをしてくださって…、そうして、進んでいくものなのです。まずは、そういったことを、ここヨハネ 4 章の記事から確認をしていきたいと思ひます。どうぞ、今日のみことばの内、ヨハネ 4:1-14 をご覧ください。そこには、このように記されてあります。

- 1 イエスがヨハネよりも弟子を多くつくて、バプテスマを授けていることがパリサイ人の耳に入った。それを主が知られたとき、
- 2 ——イエスご自身はバプテスマを授けておられたのではなく、弟子たちであったが——
- 3 主はユダヤを去って、またガリラヤへ行かれた。
- 4 しかし、サマリヤを通って行かなければならなかった。
- 5 それで主は、ヤコブがその子ヨセフに与えた地所に近いスカルというサマリヤの町に来られた。
- 6 そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れで、井戸のかたわらに腰をおろしておられた。時は第六時ごろであった。
- 7 ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。イエスは「わたしに水を飲ませてください」と言われた。
- 8 弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた。
- 9 そこで、そのサマリヤの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリヤの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」——ユダヤ人はサマリヤ人とつきあいをしなかったからである——

- 10 イエスは答えて言われた。「もしあなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくれと言う者がだれであるかを知っていたなら、あなたのほうでその人に求めたことでしょう。そしてその人はあなたに生ける水を与えたことでしょう。」
- 11 彼女は言った。「先生。あなたはくむ物を持っておいでにならず、この井戸は深いのです。その生ける水をどこから手にお入れになるのですか。」
- 12 あなたは、私たちの父ヤコブよりも偉いのでしょうか。ヤコブは私たちにこの井戸を与え、彼自身も、彼の子たちも家畜も、この井戸から飲んだのです。」
- 13 イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでも、また渇きます。」
- 14 しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」

●わざわざ、サマリヤを通られたイエス様

今読んだみことばにありましたように…、この時、イエス様は、ユダヤからガリラヤへ行こうとしておられました。聖書の巻末に付いてある地図をご覧ください。分かりますと思ひますが、ユダヤから見て、ガリラヤは、ほぼ真北方向にあります。そうして、その真ん中にあるのが、『サマリヤ』という地方です。今日のみことばは、ここサマリヤで起こった出来事について記されてあります。

まず、皆さんに注目していただきたいところは、4 節の、『しかし、サマリヤを通って行かなければならなかった。』というみことばです。実は、この当時、多くのユダヤ人たちは皆、ガリラヤへ行き来する時、最短ルートであったサマリヤを、**わざわざ避けて通るのが常であった**からです。だから、今読んだみことばの 9 節にも、『……—ユダヤ人はサマリヤ人とつきあいをしなかったからである—』という注釈が書かれてあるわけです。

…にも関わらず、ここ4節のみことばは、**イエス様が、『サマリヤを通って行かなければならなかった…』**ということをお教えます。どうしてでしょう？ ⇒それは、それが神様のみことば…、つまり、神の御計画であったからです！ …例えば、皆さん、覚えておられますか？ イエス様がエリコへ行つて…、あのザアカイに声を掛けられた時、イエス様は、こうおっしゃられたでしょ？ 『ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。』(ルカ 19:5) っつて…。実は、この、『泊まることにしてある…』という表現には、英語の「must」に相当する、「δεῖ」という(非人称)動詞が使われているのです。つまり、「私は今日、あなたの家に泊まらなければならない！」ということ、ここで、イエス様はおっしゃっておられるわけです。実は、今日のみことばの4節にも、それと同じ…、その「δεῖ」というギリシヤ語が使われているのです。

このように…、イエス様は、実に様々なことを…、**神の御計画に基づいて行動されていた！**ということが分かります。今日のみことばにしても、イエス様は、たまたま…、何の考えも無しに、サマリヤを通られたのではありません。あるいは…、たまたま、ザアカイの家に泊まられたのでもありません。そこには、最善なる神様の御計画…、つまり、神様からの導きがあったのです！

皆さんは、こんなみことばを知っていますか？ 『**義人はいない。ひとりもない。**』っつて…。ローマ 3:10 に、そう記されてあります。そうして、その後には、こう続いているのです。『**11 悟りのある人はいない。神を求め人はいない。 12 すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行う人はいない。ひとりもない。**』っつて…。

⇒つまり、神様のみことばは、こう教えるのです、「本来、私たち人間は、自分たちの側から動いて…、神様を求めたり…、救いに至ることができない！」っつて…。これは、私の考えではありません！ そう、聖書のみことばが教えているのです。だから、例えば、**1 コリント 12:3** にも、『**聖霊によるのでなければ、だれも、**

『イエスは主です』と言うことはできません。』ということが教えられてあって…、私たちの救いには、神様の御働きが必要不可欠である！神様の導きが無くては救われ得ない！ということが教えられてあるのです。もちろん、私たちの側で、そういったことを感じ取ることはできません。だから、私たちは、ある時に、自分の意志で…、自分の選択で、教会に行つて、救われたように思えるでしょう。でも、実は、その背後には皆、神様からの導きがあったのです。その神様の導きがあったから、私も、皆さんも救われたのです！

●イエス様からの話しかけ

さて…、そのサマリヤの町の、『スカル』という所に、イエス様は行かれました。そこには、創世記に登場してくる、あのヤコブが掘ったとされる井戸がありました。そこで、イエス様が腰をおろして休んでおられる時に、1人のサマリヤの女がやってきます。みことばは、それが、『第六時ごろであった…』と教えます。実は、これは普通のことでありませんでした。…と言うのも、この『第六時ごろ』というのは、今の時間帯で言えば、正午を指すからです。この時代、この地域の者たちは、普通、正午の1番暑い最中に水を汲むことはしませんでした。…と言いますのも、こら辺の場所は、今で言うところの「地中海性気候」で、日中はとても暑かったからです。

でも、このサマリヤの女には、そうせざるを得ない事情がありました。まあ、その事情は、もう少し後で分かりますが…、そこで、イエス様は、この女と会われたわけですね。もしも、イエス様が、ほんの30分でも遅れて、ヤコブの井戸に行かれていたら、その女と会うことも無かったでしょう…。でも、これもまた、最善なる神様のみこころ…、御計画であったのです。

そこで、イエス様は、このサマリヤの女に、声をお掛けになられます、『わたしに水を飲ませて下さい…』って…。実は、これもまた、普通のことでありませんでした。…と言いますのも、この当時、ユダヤ人の…、しかも男性の側から、サマリヤ人の女に声を掛けるなんて有り得なかったからです。だから、このサマリヤの女は、9節にあるように、“驚いた”わけです。

このことは、さかのぼって話しますと、非常にややこしいのですが…、簡単に言うと、この当時、ユダヤとサマリヤには、かなりの“確執”というものがあつた。つまり、仲が悪かつたのです。その理由は、サマリヤの地方が、古くから偶像礼拝が盛んで…、その地方の者たちが異邦人たちと結婚をしたりして…、自分たちの純潔を、肉体的にも、霊的にも失ってしまつていたからです。特に、興味深いのは、そういったサマリヤ人たちが、エズラとか、ネヘミヤといった人物が活躍した時代(紀元前5世紀)に、神の神殿を再建しようとした時、仲間に入れてもらえなかつたことです。それ故に、この時代、サマリヤの者たちは、エルサレムとは別の、『ゲリジム山』という所に神殿を作つて、自分たちはそこで礼拝を捧げていたわけですね。

まあ、そんなところに、イエス様は、敢えて、出て行かれて…、そこで、このサマリヤの女に声を掛けられたわけですね。何度も言いますが、これは、決して、偶然の出来事ではなく…、神様の深い御計画の内にあつたことなのです。確かに、この当時、ユダヤ人とサマリヤ人との間には確執があつたでしょうけれども…、イエス様には関係ありません。イエス様は、この時、サマリヤの女を救うべく…、また、サマリヤの地方にも救いのメッセージを伝えるために、この町へと来てくださったのです！

さて、そのイエス様が、このサマリヤの女へ声を掛けてくださったことにより…、イエス様とサマリヤの女との会話が始まります。最初、それは、『水』という話から始まって、『生ける水』、そして、『永遠のいのち』のことへと話が進んでいきます。恐らく、この会話は、イエス様とサマリヤの女との会話が、一言一句すべて記されているのではなく…、多少は省略されているように思います。だから、今、私たちがこの会話を見ると、多少、話が飛んでいると言うか…、少々飛躍しているのだらうと思われま

でも、いずれにしても、この時、イエス様は、わざわざ、サマリヤの町を通つて、このサマリヤの女へ話しかけられたということです。そこには、間違いなく、偶然では無い…、イエス様の選択と言うか、イエス様のご計画というものを見ることが出来ます。…と同時に、皆さんに分かつてもらいたいことは、この福音書を書き記した「使徒ヨハネの思い(=意図)」です。このヨハネは、直前のヨハネ3章で、ニコデモの記事を書き記してくれています。このニコデモと言えば、この当時、ユダヤ地方における、最高のエリートであり…、彼はパリサイ人でもありましたから、かなり、聖書のみことばにも通じておりました。そうですね？

それに対して、今日のみことばに出てくる『サマリヤの女』というのは、そのユダヤ人たちが当時、見下していたサマリヤ人という民族でありました。…と言いますのも、サマリヤ人とは、真の神様のことを知らない…、また、信じていない異邦人たちとの混血であつたからです。実は、この当時の社会では、男性が人前で、女性に声をかけることさえ、普通では考えられなかつたそうです。…しかし、そんな文化の中で、イエス様は、このサマリヤの女へ話しかけられて、救いの道を示してくださいました。そのように、イエス様は、人種や性別…、あるいは、宗教熱心かそうでないか？聖書のみことばに通じているかどうか？そんなこと…、一切、お構いなしに、私たちのことを、救いへと導いてくださっているのです。

今日、何らかの事情で、私たちのライブ礼拝を見てくださっている皆さんも、同様ですね。天の神様は、あなたが真の神様を知つて…、救われることを願つておられます。皆さんが今日、ここで、聖書のみことばを聞かれているのも、決して、偶然の延長ではありません。深い神様の摂理…、憐れみによるのです。『主は、…ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。』(Ⅱペテロ 3:9)とある通りです。ですから、どうぞ、この聖書のみことばに、耳を傾けてくださつて、願わくは、1日も早く、この神様を受け入れていただきたいと思つています。

Ⅱ・神から私たちへの要求を知る！(15-24節)

どうぞ、できましたら、もう1度、今日のみことばであるヨハネ4章をご覧ください。今度、私たちが見ていきたいことは、本当の救いに見られる2番目のステップです。それは、神様から、私たちへの“要求”を知る！理解する！ということです。どうぞ、今日のみことばの内、ヨハネ4:15-24をご覧ください。そこには、こんなことが記されてあります。

- 15 女はイエスに言った。「先生。私が渴くことがなく、もうここまでくみに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」
- 16 イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」
- 17 女は答えて言った。「私には夫はありません。」イエスは言われた。「私には夫がないというのは、もっともです。」
- 18 あなたには夫が五人あつたが、今あなたといっしょにいるのは、あなたの夫ではないからです。あなたが言ったことはほんとうです。」
- 19 女は言った。「先生。あなたは預言者だと思つています。」
- 20 私たちの父祖たちはこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われます。」
- 21 イエスは彼女に言われた。「わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。」
- 22 救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知つて礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。」
- 23 しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによつて父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのように人々を礼拝者として求めておられるからです。

24 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」

●イエス様の質問

イエス様とサマリヤの女との、言葉のやり取りがあった後で、サマリヤの女が、こう切り出します、15 節、『先生。私が渴くことがなく、もうここまでくみに来なくてもよいように、その水を私に下さい。』って…。すると、イエス様は、こう返します、『行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい！』って…。イエス様が 14 節で話して下さった、永遠のいのちや救いと、サマリヤの女が自分の夫を呼んでくることと、一体、どういう関係があるのでしょうか？実は、ここでも、かなり話が飛躍しているように思われますが、これは、イエス様が、このサマリヤの女のことをよく知っていたから、できたことなのです。

イエス様と、このサマリヤの女との話が進んでいくと分かりますが…、実は、この女からすれば、自分の夫に関することを触れられることが、1番イヤだったのです。だから、この女は、わざわざ、真っ昼間の暑い時間帯に…、わざわざ、人目を避けて、水を汲みに来ていたのです。…と言いますのは、この女には、17-18 節にありますように、①自分には、5人もの夫が居て…、②しかも、この当時、一緒にいた男は、正式には、自分の夫ではなかったからです。実は、こういったことは、この当時、非常に恥ずかしいことでした。だから、この女は、堂々と人前に出て行くことができなかったのです。

イエス様が、この女に、『行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい！』と言われたのは、イエス様が、この女の問題点や罪をすべて、ご存知であったからです。確かに、この当時、一般的に、女性の権利が低かったこともあって、何か重大なことを決める場合は、その夫の同意を得ることが必要であった、というようなこともあるかも知れませんが、でも、それだけではありません！イエス様は、この女が経験してきた道を…、また、彼女が抱えていた問題や罪を皆、ご存知であったのです！だから、イエス様は、17-18 節で、『…私には夫がないというのは、もっともです。あなたには夫が五人あったが、今あなたといっしょにいるのは、あなたの夫ではないからです。あなたが言ったことはほんとうです。』とおっしゃったのです。

でも、この言葉によって、サマリヤの女は、このイエス様がただの人間ではないことに気がきます。だって、初めて会ったはずのイエス様が、自分の過去や自分の問題をすべて、的確に言い当てたからです。だから、この女は言うわけです。19 節、『先生。あなたは預言者だと思えます。』って…。この女は、イエス様が、只者ではない…、神から遣わされた者だということに気付いたのです！

だから、この女は、自分たちサマリヤ人たちが抱えてきた大きな…、礼拝に関する問題について質問をしたのではないのでしょうか？20 節、『私たちの父祖たちはこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われます。』って…。『この山』と言いますのは、先程言いました、「ゲリジム山」のことです。この当時、サマリヤ人たちは、エルサレムの神殿で礼拝を捧げることができなかったで、そのゲリジム山で、自分たちの礼拝を捧げていたからです。「イエス様、あなたなら、この問題の解決を…、神様のみこころをご存知ではないですか？」ということのように思われます。

このように、私たちは、天におられる真唯一の神様が、私たちに、どんなことを願っておられるのか？ということ、まずは、知ることが大事です。…と言いますのは、あまりにも、私たち人間が、神様に、多くの注文や願い事を投げかけるばかりで…、1番肝心な神様からの御声に耳を傾けようとしないからです！ローマ 10:17 は、こう教えます、『…信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。』って…。あまりにも、私たちは、自分たちのことばかり主張し過ぎて、まず、神様のみことばに耳を傾ける…、神様が、私たちに、どんなメッセージを発しておられるのか？ということに関して、無頓着すぎるのではないのでしょうか？

●『真の礼拝者』とは？

どうぞ、今日のみことばの 21 節以降をご覧ください。そこで、イエス様は、このサマリヤの女からの質問に答えて…、「礼拝の本質」とも言うべき事柄について教えてください。まず、イエス様が教えて下さったのは、21 節、①礼拝というのは場所ではない！ということです。ゲリジム山でも、エルサレムの神殿でもない！…そのような場所が大事なのではない！ということです。…ということはつまり、私たちが今、捧げている礼拝も、必ずしも、教会じゃないと、神様に喜ばれない、ということは決して無いのです。

そうして、今度、22 節、②救いは、ユダヤ人から出る！ということ…。確かに、天の神様は、世界中で、ユダヤ人という民族を、特別に選ばれて…、彼らを用いて、御自身のことを明らかにしてくださいました。それは、神様が、創世記 12 章で、あのアブラハムに対して、『…地上のすべての民族は、あなた(=アブラハム)によって祝福される…』(創世記 12:3)と約束して下さった通りです。

そうして、最後に、イエス様が教えて下さったのは、『真の礼拝者たち』に関することです。その礼拝者たちが1番に尊重するのは、①場所でも…、あるいは、②人種や血統でもありません。真の礼拝者たちが1番に気に掛けるのは、「霊とまことによる礼拝」なのです。

では、ここで言われている『霊とまこと』とは、どういう意味で、具体的には何を指しているのでしょうか？⇒『霊』はさておき…、『まこと』の方は、そう難しくありません。ここで使われてある『まこと』(ἀλήθεια)という言葉は、聖書の他の箇所では、「真理」などと訳されてある言葉で、「真実、本当、誠実…」などいう意味を表わしています。そして、もう一方の、『霊』という言葉は、恐らく、「御霊、聖霊」のことを指しているわけではありません。

確かに、ここ 23-24 節には、あの有名な「πνεῦμα」という、「(聖)霊、風…」などを表わす言葉が使われてあるのですが…、この言葉は、いつも、「(聖)霊、風…」だけを表わすわけではありません。実は、この言葉は、それ以外には、「心や人格、気持ち…」などを指すこともあるのです。

恐らく、ここで言われている、「霊とまことによる礼拝」というのは、それまで、普通には捧げられていなかった礼拝のことです。しかも、イエス様が、この地上に来て下さったことによって、初めて、それが可能になったのです。『今がその時です。』というのは、そういったことを指しているのではないのでしょうか？…実は、この時代、ユダヤ人たちは、サマリヤ人たちと比べると、聖書のみことばに通じ…、真の神様に関する“正しい知識”を持っていました。しかし、残念ながら、彼らには、礼拝に対する熱心さと言うか、あるべき情熱が欠けておりました。だから、先週の礼拝で学んだように、先祖からの言い伝えを神様のみことば以上に優先したり…、あるいはまた、神様を礼拝すべき神殿で、強盗まがいの法外な両替がまかり通っていたのではないのでしょうか？

それに対して、サマリヤ人は？と言うと、彼らは、礼拝に関する熱心さや情熱は、そこそこ持ち合わせていたようです。皆さん、覚えておられます？ルカ 17 章に記されてある、「ツアラアトが癒された 10 人」のエピソードが載っていますが、あの時、わざわざ、戻って来て、イエス様に感謝した人物は誰でした？⇒サマリヤ人だけでしたよね！そうして、イエス様は、そのサマリヤ人に、こうおっしゃったのです、『立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰が、あなたを直したのです。』(ルカ 17:19)って…。まあ、これも、たまたまかも知れませんが、ひょっとしたら、彼らサマリヤ人たちは、神様に対する“情熱や熱心さ”を持ち合わせていたのかも知れません。しかし、彼らは、確実に、神様に関する正しい理解が欠けておりました。…と言うのも、彼らサマリヤ人たちは、所謂、モーセ五書だけを正典…、つまり、真の神様からの誤りの無いみことばとして考えていたからです。

つまり、ここで言われている、『まこと』というのは、「正しさ」というような意味ではないのでしょうか？そして、『霊』というのは、平たく言うと、「情熱」のような熱心さのことだろうと、私は考えています。残念ながら、この当時のユダヤ人も…、サマリヤ人たちも、その両方を持ち合わせてはなかったのです！

皆さん。先程も言いましたが、ここで、イエス様は、サマリヤの女の質問に答えて…、「礼拝の本質」について教えてください。だから、有名な 24 節のことば、『神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。』という言葉があります。そこで、皆さんに考えていただきたいのですが、この少し後の時代、コリント教会が、幾つかの問題を抱えておりましたが、その1つは礼拝に関する問題でありました。だから、彼らは、礼拝中、必要以上に、異言を語ることを求めたり…、人目を引くような奉仕や賜物に憧れる傾向にあったのです。そうでしたよね？

⇒では、パウロは、そのコリント教会に、何を優先するように教えました？…何でした？⇒実は、それは、大きく分けて、2つあったのです！1つは、愛であります。残念ながら、その当時のコリント教会には、愛が欠けていたのです。だから、パウロは、I コリント 13 章で、愛に関して詳しく教えてくれたのです。

どうぞ、皆さん、できましたら、I コリント 13 章を開けてみてくださいませ？ I コリント 13:1-3、『1 たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。2 また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。3 また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役に立ちません。』

⇒このように、パウロは、多くの問題を抱えていたコリント教会に対して、愛の重要性を訴えています。…と言いますのも、I ペテロ 4:8 のみことばが、こう教えるからです。『何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。』って…。神の教会には、愛が無くてはなりません…。それと、もう1つ、神の教会には、決して、欠けてはいけないものがあります。それは、何だと思えます？⇒どうぞ、皆さん、I コリント 14:1-5 をご覧ください。『1 愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。2 異言を話す者は、人に話すのではなく、神に話すのです。というの、だれも聞いていないのに、自分の霊で奥義を話すからです。3 ところが預言する者は、徳を高め、勧めをなし、慰めを与えるために、人に向かって話します。4 異言を話す者は自分の徳を高めますが、預言する者は教会の徳を高めます。5 私はあなたがたがみな異言を話すことを望んでいますが、それよりも、あなたがたが預言することを望みます。もし異言を話す者がその解き明かしをして教会の徳を高めるのでないなら、異言を語る者よりも、預言する者のほうがまっています。』

⇒このように、パウロは、コリント教会に、互いに、愛し合うべきことと、熱心に預言すること…、つまり、聖書のみことばを解き明かすことを勧めます。…と言うのも、これこそ、教会が持っていなければならない、大きな2本の柱であるからです。それこそ、愛と正しさであります！実は、そういったことこそ、今日のみことばでイエス様が教えてくださった、真の礼拝者たる教会が追い求めるべきものだ、私は考えます。

Ⅲ・本当に救われた者に起こる「変化」！(25-39 節)

少し長くなりましたが、それでは、最後のポイントを見ていきましょう。本当の救いに見られる3つ目のステップは、本当に救われた者に起こる「変化」であります。皆さんも、よく、ご存知のように、本当に救われた者たちには、何らかの変化が起こります。最後、そのことを、今日のみことばから確認したいと思えます。どうぞ、今日のみことばの内、ヨハネ 4:25-39 までをご覧ください。そこには、こう記されてあります。

25 女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシヤの来られることを知っています。その方が来られるときには、いっさいのことを私たちに知らせてくださるでしょう。」

26 イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

27 このとき、弟子たちが帰って来て、イエスが女の人と話しておられるのを不思議に思った。しかし、だれも、「何を求めておられるのですか」とも、「なぜ彼女と話しておられるのですか」とも言わなかった。

28 女は、自分の水がめを置いて町へ行き、人々に言った。

29 「来て、見てください。私のしたこと全部を私に言った人がいるのです。この方がキリストなのでしょう。」

30 そこで、彼らは町を出て、イエスのほうへやって来た。

31 そのころ、弟子たちはイエスに、「先生。召し上がってください」とお願いした。

32 しかし、イエスは彼らに言われた。「わたしには、あなたがたの知らない食物があります。」

33 そこで、弟子たちは互いに言った。「だれか食べる物を持って来たのだろうか。」

34 イエスは彼らに言われた。「わたしを遣わした方のみこころを行い、そのみわざを成し遂げることが、わたしの食物です。」

35 あなたがたは、『刈り入れ時が来るまでに、まだ四か月ある』と言ってはいませんか。さあ、わたしの言うことを聞きなさい。目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。

36 すでに、刈る者は報酬を受け、永遠のいのちに入れられる実を集めています。それは蒔く者と刈る者がともに喜ぶためです。

37 こういうわけで、『ひとりが種を蒔き、ほかの者が刈り取る』ということわざは、ほんとうなのです。

38 わたしは、あなたがたに自分で労苦しなかったものを刈り取らせるために、あなたがたを遣わしました。ほかの人々が労苦して、あなたがたはその労苦の実を得ているのです。」

39 さて、その町のサマリヤ人のうち多くの者が、「あの方は、私がしたこと全部を私に言った」と証言した。その女のことばによってイエスを信じた。

●イエス様のことを、キリストと信じ受け入れて、そのことを宣べ伝えた！

このみことばを読んで分かりますように、このサマリヤの女は、ある程度、『キリストと呼ばれるメシヤ』のことは知っておりました。ただ、それが、このイエス様だと分からなかったのです。しかし、この女は、少なくとも、イエス様が只者ではなく…、神様から遣わされた『預言者』ではないか？とまで考えておりました。そのイエス様が、いよいよ、この 26 節で、ご自分の正体を明らかにされたのです。「わたしこそが、キリストと呼ばれるメシヤだ！」って…。

すると、そこに、イエス様の弟子たちが帰って来ました。そして、このサマリヤの女は、わざわざ、汲みに来ていた水がめを置いて、町へ行って、こう言うわけです。29 節、『来て、見てください。私のしたこと全部を私に言った人がいるのです。この方がキリストなのでしょう。』って…。皆さん、覚えてくださっていますか？この女は、ついさっきまで、人目を避けて、真っ昼間に、水を汲みに来ていたような女だったので、そんな女が、「このお方が、キリストなのでしょうか？」と言って、大勢の人たちに、そのことを伝えてもらったことを、今日のみことばは教えてくれています。このように、イエス様を信じた人たちは、変えられます。だって、聖書のみことばは、こう教えるじゃないですか！ II コリント 5:17、『だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。』って…。このように、イエス様を信じて救われたら、神が、その人のことを変えてくださるのです！そうでしょ？

あの有名なローマ 10 章のみことばには、こうあります。『9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。』(ローマ 10:9-10)って…。本当に、イエス様を信じて、義と認められたら、私たちは、口で告白せずにはおられません。イヤでも、その信仰が、言葉や何らかの行動になって出てくるのです。ここに居られるクリスチャンの皆さんも、そうじゃなかったですか？

面白いことに、あの近藤先生は、中学生の時、初めて、教会へ誘われたそうです。でも、その時、お

母さんから、「教会なんかに行ったらアカン！」と言われたそうです。でも、近藤先生曰く、「その時は、母親に反抗したい時期(=罪)だったので、「じゃあ、教会へ行ってみよう！」と考えて、教会へ行ったそうです。でも、その後、教会で信仰を持った時、「信仰を持ったことを親に言ったら叱られるから、このことは言わないでおこう…」と思ったそうです。でも、家に帰った、その日に、自分が信仰を持って、クリスチャンになったことを母親に告白したそうです。…と言うのも、自分が信仰を持って、救われたということを、黙っていられたからですって…(笑)。でも、それこそ、本当に救われたクリスチャンの姿ではないでしょうか？

皆さん、イエス様が、**マタイ 10:32-33** で何と教えてくださいましたか、覚えておられますか？そこには、こう記されています、『32 ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。 33 しかし、人の前でわたしを知らないと言うような者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います。』って…。

⇒このみことばもまた、本当に救われた者が、様々な迫害の中にあつたとしても…、イエス様のことを証しするはずである！ということをお教えています。何度も言いますが、本当に救われた者たちは皆、神様によって変えられて…、その変えられた者たちは皆、神様のことを愛するようになるのです。そのことを、あの使徒ヨハネは、こう教えます。I ヨハネ 5:1、『イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。』って…。このように、実に、多くのみことばが…、いえ、すべてのみことばが、本当に救われた者たちは皆、神を愛するように変えられる！ということをお教えています。違うでしょうか！

●現代にはびこる、「安易な信仰主義」の教え

どうして、私が、同じようなことを、何度も何度も言うか、分かってくださいますか？…それは、今、多くのキリスト教会で、「安易な信仰主義」というものが教えられているからです。「もしも、あなたが今、イエス様を信じたら、あなたは救われます！そこには、オーバーに言えば、心からなる罪の悔い改めも…、変化も必要ありません！それらは、救いには必要ないですから！」って…。そう教えて、私たちが、ただ知識の上で、イエス・キリストを信じることを、多くの教会が勧める傾向にあります。

今日のみことばにしても、そうです！「ここで、イエス様はサマリヤの女に、何の犠牲も…、大きな変化も要求しておられない！だから、私たちが、誰かに、この救いの道を説明する時には、ただ、神様からの賜物を受け入れるようにだけ説明すれば良い！」というようなことを教える教会が数多くあります。でも、本当に、そんなんでしょうか？

どうぞ、皆さん。福音書を読んで、理解する時には、こんな点に注意してください。福音書は、ただ、実際に起こったことが、忠実に書き記されたみことばである！ということをお教えます。…、どうということかと言いますと、ここで、イエス様は、伝道の How to についてお教えているわけではないのです！

例えば、ここで、イエス様がサマリヤの女に伝道された時、罪を悔い改めないといけないうことや、イエス様を主とすることなどを教えなかったからと言って、必ずしも、それらが救いに必要ないか？と言うと、そうとは限りません。…もしも、福音書に見られるイエス様の伝道方法を、私たちが実践するのなら、私たちは、真の神様が造り主であることや罪がもたらす報い…、永遠の裁きやイエス様の十字架についてなど、そういったことについて、説明しなくても良いことになってしまいます。…と言うのは、ここで、イエス様は、サマリヤの女に対して、そういったことを一切、話しておられないからです。いえ、それだけではありません！

例えば、イエス様は、ある時、永遠のいのちを得たいという質問をした、金持ちの青年に対して、彼の罪を自覚させるために、『もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい！』ということをおっしゃられました(マタイ 19 章)。でも、私たちが、今、こんな伝道をするのでしょうか？…しないでしょう？

また、ある時、イエス様は、初対面のザアカイに対して、『ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。』とおっしゃって、ザアカイの家に行かれました。じゃあ、私たちは今、新しく教会に来てくださった人たちの家に、その当日に、お邪魔すべきでしょうか？…ダメでしょ？

イエス様が、そういったことをされたのは、事実です。だって、この聖書のみことばは、誤りの無い…、神のみことばだから…。でも、私たちは、ここに記されてあることを、そのまま、実践して良い場合と、そうではない場合があるのです。私たちはイエス様ではないのです！イエス様は、サマリヤの女の問題点を、すべてご存知でした…。また、あの金持ちの青年の問題点やザアカイの問題点も…。しかし、私たちは、イエス様のように、全知ではありません。だから、私たちは、ある時には、よくよく注意して、みことばを解釈し…、それらを適用していかなくてはならないのです。

でも、果たして、イエス様は、あのサマリヤの女に、何も要求されなかったのでしょうか？どうでしょう？…だって、イエス様は、サマリヤの女に、『行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい！』(ヨハネ 4:16)とおっしゃって…、サマリヤの女が、一番触れられたくないことを命じられたじゃないですか！また、イエス様は、その女に、こう言われました。ヨハネ 4:14、『しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことがありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出します。』って…。果たして、イエス様が与えてくださる「水を飲む」という行為は、何の造作もないような…、容易なことなのでしょうか？

例えば、イエス様は、ヨハネとヤコブの兄弟が、イエス様のところへやって来て、「天に行った暁には、私たちを、イエス様の両側に座らせてください！」と、彼らが願った時に、こんなことを、彼らに言われました。マタイ 20:22、『あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていないのです。わたしが飲むことのできる杯を飲むことができますか？』って…。それに対して、彼らは、「できます！」と言ったのですが、果たして、それは簡単なことだったのでしょうか？

また、イエス様は、あのゲツセマネの園で、こんな祈りを捧げられました。『父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いはなく、みこころのとおりになしてください。』(ルカ 22:42)って…。果たして、このことは、容易なことだったのでしょうか？

確かに、イエス様は、**マタイ 11:28-30** で、『28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。 29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。 30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。』とおっしゃられましたが、果たして、イエス様のくびきを負うことは、何の造作も無いような…、容易なことなのでしょうか？

それが、簡単なことである…、そんなに難しいことではないと考えるのは、人さまざまです。人によって、多少は考えや感覚が違うだろうと思われれます。しかし、聖書のみことばは、決して、それが、いい加減な…、軽い決心ではないことをお教えています。そうではないでしょうか！だから、イエス様は、**マタイ 19 章** で、『23 …まことに、あなたがたに告げます。金持ちが天の御国に入るのはむずかしいことです。 24 まことに、あなたがたにもう一度、告げます。金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。』と言われたのです。

しかし、その後には、こう続きます、『25 弟子たちは、これを聞くと、たいへん驚いて言った。「それでは、だれが救われることができるのでしょうか。」 26 イエスは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。』⇒このように、人を救いに導くのは、私たち人間ではなく、全能なる神様の御働きです。私たちが、ただ、この神様に祈りつつ…、ただ、神様の教えてくださる通りに、福音のメッセージを…、救いのメッセージを語っていくのみです。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。